



特定非営利活動法人

日本防災士会

No.7
2012

奈良県支部 広報

■巻頭寄稿

防災士とマスメディアの連携を目指して

NHK奈良放送局放送部アナウンス 谷口 慎一郎(防災士)

新たに防災士の仲間入りをさせていただいた谷口慎一郎です。現在、夕方6時10分から放送しているニュース番組「ならナビ」のキャスターを担当しています。去年の豪雨災害では、野迫川村役場や避難所の様子を中継で伝え、ラジオFMでは生活情報を中心に放送しました。

その中で、今、考えているのは、防災士とマスメディアの連携です。防災士は、自分が住む地域を熟知し、防災リーダーとしての活躍が期待されています。そういった防災士の方々から地域の情報をNHKに送っていただき、放送に生かすというものです。各地域の状況を放送局で統合し、県民の方々にきめ細かい情報を広くフィードバックすることが理想です。NHKが放送している災害報道の時間や内容について、逆にこちらからみなさんを通して地域に伝えていただく形もあるかもしれません。

実際に去年は、防災士の方々からも地域の情報をいただきました。同時に、電話が不通になった十津川村などでは、有事における防災士同士の連絡手段の課題もみえました。

マスメディアをより身近に感じていただき、みなさんの仲間の1人として、災害情報をより良く生かす手立てを一緒になって考えていければと思っています。担当している「ならナビ」では新たに「防災知恵袋」という、お得で身近な防災知識を紹介するコーナーもはじめています。まだ動き始めたばかりですが、こちらも、どうぞよろしくお願いいたします。



■災害支援活動レポート

野迫川村応援「温泉ツアー」

奈良県支部 事務局長 植村信吉

去る5月20日(日)、奈良県支部磯城郡ブロックの主催で、野迫川村応援「温泉ツアー」が行われました。このツアーは、磯城郡ブロック(代表: 柏田防災士)が中心となって呼びかけたもので、少しでも野迫川村の復興に役立てれば、と企画されたものです。

当日は、磯城郡在住の防災士の他、県内の防災士や主旨に賛同した方々等17名の参加がありました。当支部からは中田・木村両副支部長を始め、前川広報部長、植村事務局長も参加し、野迫川村へ向かいました。

野迫川村では、最初に仮設住宅を訪問し、地元の区長である中本さんから仮設住宅の現状や住民の皆さんの様子などを聞かせて頂きました。



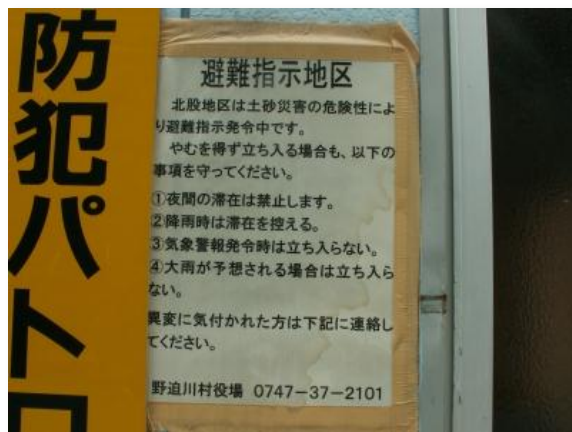
次に、被災地(北股地区)へ向かいました。現地では、偶然、農作業をされていた地元の方から、当時の様子や今の暮らしぶりなどを聞くことができました。ただ、この北股地区は、今も避難指示が発令されたままで、住民の方々は朝から夕方まではこの地区へ入れますが、夜は立ち入り禁止制限があるそうです。

この後、「ホテルのせ川」へ向かいました。途中、いたるところでガケ崩れの傷跡が残っていたり、大量の流木が集められていたりで、当時の被災状況が垣間見える道中となりました。

「ホテルのせ川」では、支配人を始め従業員の方々が暖かく迎えて下さり、昼食・入浴を済ませてからそれぞれ「野迫川村みやげ」を購入しました。

支配人からは、ホテルの様子など少しお話を聞かせて頂きました。また「風評被害で観光客が激減しています。今日来ていただいた皆さんから、野迫川村は大丈夫！ぜひ野迫川へ行きましょう！」と、話して頂ければ嬉しいです。」との言葉もありました。

私達参加者は、訪問記念としてそれぞれの思いを寄せ書きに書き込み、支配人に手渡しました。支配人には「一番目立つ所に貼ります！」と、大変喜んで頂きました。



最後に、被災地の北股地区を一望できる場所があると聞いて、龍神スカイライン方面へハードな林道を上って土砂くずれの様子を視察しました。

こうして見ると、土砂くずれの規模がいかに大きかったのか、また、集落の真上には土砂ダムができていたこと等が良くわかりました。

今回は、通常考えられているボランティアと違い、比較的高齢な方でも、また家族や友人どうしても気楽に復興・復旧支援行動ができるということを実感した一日となりました。

■支部活動レポート

日本防災士会奈良県支部第5回総会報告

去る4月22日(日)、奈良市防災センターにおいて、日本防災士会奈良県支部第5回総会を開催しました。総会には、奈良県安全・安心まちづくり推進課の中嶋課長を始め、奈良市消防局の徳岡局長、日本防災士会の本部からは橋本事務統括、近隣支部からは大隅滋賀県支部長、粟飯原大阪支部長、梅木和歌山県支部長が駆けつけて下さいました。

総会は、東日本大震災及び台風12号に伴う水害で亡くなられた方々への黙とうにはじまり、木本支部長が開会のあいさつを行ったあと、来賓あいさつ、祝電披露と続き、その後議案の審議に移りました。総会の議長は斑鳩町の川村防災士(18才)が務め、予定していた議案は全て原案通り承認されました。

参加者からは「昨年の東日本大震災や奥吉野への支援行動などにおいて、これにかかる費用が全て個人負担となっている。これでは今後の活動に支障をきたすので、災害対策基金的なものを作ってはどうか。」「当支部の会計の収支状況は厳しいので、今後、行政などへ働きかけてはどうか。」等の意見が出されました。この意見を受けて、役員会を中心に具体的な協議を行っていく旨の答弁がありました。

総会終了後には、防災研修会が開催され、梅木和歌山県支部長から被災地支援報告が、西前防災士(天川村 和田郵便局長)からは、被災当時の状況と今後の課題などが報告されました。特に、災害発生当時の天川村の様子や現地の状況などを生々しく報告された西前防災士の話には参加者一同が真剣に耳を傾けていました。

●当日の議案

1. 平成23年度事業報告案
2. 平成23年度会計報告案
3. 平成23年度会計監査報告案
4. 平成24年度事業計画案
5. 平成24年度予算案
6. 平成24年度役員案

※尚、今後県内で市及び郡でブロックが結成された場合、代表が決まり次第役員会の了承を得て役員会へ出席して頂くこととなりました。

●新年度役員

支部長	木本喜信 (奈良市)
副支部長	中田勇四郎 (奈良市)
〃	木村尚史 (御所市、J P)
〃	奥田英人 (橿原市)
事務局長	植村信吉 (三宅町)
〃 次長	南上敏明 (天理市)
〃 次長	奥田 仁 (香芝市)
会 計	古瀬博之 (奈良市、J P)
幹 事	前川輝男 (奈良市、広報部長)
〃	井上 清 (奈良市、教育・研修部長)
〃	川口 均 (生駒市、生駒ブロック)
〃	柏田勝幸 (田原本町、磯城郡ブロック)
〃	丹羽松一 (奈良市、六条校区ブロック)
会計監査	伊藤東洋雄 (王寺町)
〃	西川隆清 (三郷町)
顧 問	中川 徹 (奈良市)



■地域防災活動

「帝塚山自主防災・防犯会」が防災視察研修会を開催

奈良県支部 広報部長 前川輝男

去る6月2日(土)、奈良帝塚山自主防災・防犯会(約3000世帯・15自治会)の会員50名が、京都市の「文化財建造物保存技術研修センター」にて防災視察研修会を行いました。

この研修会は、災害が少ないと言われている古都奈良・京都でも日頃から防災意識を高め、自助・共助を基本に地域のコミュニケーションと地域の絆を強めることを目的として開催されました。奈良県支部からは、中田副支部長、前川広報部長、井上教育・研修部長、中川顧問が参加しました。



視察研修会は「明日の京都文化遺産プラットフォーム」と題する、立命館大学 土岐教授(歴史都市防災技術センター長)の講演や、同大学大窪先生による「京都市文化財とその周辺を守る防災水利整備事業」の視察案内と報告がありました。又、当支部井上教育・研修部長からは「平成24年度奈良防災事業計画」の説明があり、今後の自主防災・防犯活動へ決意を新たにしました。



■広域防災活動

「日本防災士会関西支部連絡協議会」設立

7月11日(水)、兵庫県芦屋市内の「レストラン竹園」にて「日本防災士会関西支部長会議」が開催されました。奈良県支部からは、木本支部長を始め中田副支部長・植村事務局長が参加しました。

この会議では、兵庫県・大阪府・滋賀県・奈良県・和歌山県の各支部会員を構成員とする「日本防災士会関西支部連絡協議会」を設立することが決定されました。また、8月21日(火)には「設立総会」を、11月4日(日)には「研修会」を開催することも決まりました。

初代会長に大石伸雄氏(兵庫県支部)、副会長に栗飯原和宣氏(大阪府支部)、理事には大住光男氏(滋賀県支部)・木本喜信氏(奈良県支部)・梅木直幸氏(和歌山県支部)が選任される予定です。

これによって関西圏各支部の連携強化と情報共有が一段と推進されることが期待できます。



■発行日 2012年9月1日

■発行者

日本防災士会奈良県支部 支部長 木本喜信
〒631-0014 奈良県奈良市朝日町 2-395-10

■事務局

日本防災士会奈良県支部 事務局長 植村信吉
〒636-0215 奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5
電話：090-8378-1106
E-mail：mail@bousainara.com